

## 平成25年度教育研究活動報告書

|      |  |    |              |
|------|--|----|--------------|
| 氏名   | 安達 巧                                   | 所属 | 経済情報学部経済情報学科 |
| 学位   | 博士（経済学）&修士（法学）（東北大学）                   | 職位 | 教授           |
| 専門分野 | 企業会計制度、会計監査人の責任、コーポレートガバナンス、コンプライアンス経営 |    |              |

|  |   |
|--|---|
| I 教育活動   |   |
| 本年度担当科目  |   |
| 学部   | 専門演習Ⅰ<br>専門演習Ⅱ<br>基礎演習Ⅰ<br>会計学<br>経営分析論<br>簿記原理Ⅰ 及び 簿記原理Ⅱ   |
| 大学院  | 研究演習<br>会計学特論<br>簿記論特論  |
| II 研究活動  |   |
| これまでの主な研究業績（5件まで）  |   |
| （1）著書『ディスクロージャーとアカウンタビリティー—監査人としての公認会計士の責任—』創成社（2002）                                |   |
| （2）著書『企業倫理とコーポレートガバナンス—知的資産の有効活用—』創成社（2002）  |   |
| （3）著書『会計基準の法的位置づけ—財務書類の真実性と会計・監査基準—』税務経理協会（2004）                                     |   |
| （4）著書『会計制度の断面』ふくろう出版（2011）   |   |
| （5）著書『JALの監査の失敗と裁判—日本の公認会計士監査の水準と現実—』ふくろう出版（2013）                                    |   |
| 本年度を含む過去3年間の研究業績   |   |
| （1）著書『内部統制・監査とブランド力』ふくろう出版（2011）   |   |
| （2）論文「IFRS導入とわが国の会社法会計・税法会計」『産業経理』第71巻第2号、2011年7月                                    |   |
| （3）論文「実効的な日本型コーポレートガバナンスの模索—オリンパス事件を契機として—」『産業経理』第72巻第2号、2012年7月                     |   |
| （4）論文「コーポレートガバナンスと会計監査人監査—『監査における不正リスク対応基準』の新設及び監査責任訴訟増加を踏まえて—」『産業経理』第73巻第2号、2013年7月 |   |
| （5）論文「金融商品取引法監査の趣旨及び目的と監査人の責任—JALの監査の失敗を契機として—」『会計』第185巻第3号、2014年3月                  |   |
| 現在の研究テーマ（3つまで）   |   |
| （1）JAL会計監査人の監査責任について   |   |
| （2）会計監査人の監査責任に関する法律学と会計学との認識ギャップ   |   |
| （3）企業不祥事（粉飾決算）事例とコーポレートガバナンス   |   |
| 研究テーマの進捗状況   | （1）及び（2）については、研究成果の一部を本年度に著書として発表したが、引き続き研究を継続している。（3）については、「企業不祥事」に終わりが無い現実を直視し、新たに発生する事例を常に検証し考察している。 |
| 学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績）  |   |
| 所属学会・所属団体 役職等  |   |
| 日本会計研究学会、日本私法学会、日本監査研究学会、日本経営学会、日本税法学会   |   |